# 令和３年度第２回大分市総合教育会議　議事録

1．日　時　　令和３年８月４日（水）10：00～11：15

2．場　所　　本庁舎８階　大会議室

3．出席者

〇総合教育会議構成員

| | |
|---|---|
| 大分市長 | 佐藤　樹一郎 |
| 大分市教育委員会教育長 | 佐藤　光好 |
| 大分市教育委員会委員 | 古城　和敬 |
| 大分市教育委員会委員 | 上杉　美穂子 |
| 大分市教育委員会委員 | 古城　一 |
| 大分市教育委員会委員 | 廣津留　すみれ |

〇事務局

| | | | |
|---|---|---|---|
| 企画部長 | 伊藤　英樹 | 教育部長 | 末松　広之 |
| 子どもすこやか部長 | 藤田　恵子 | 教育監 | 高橋　芳江 |
| 企画部審議監 | 広瀬　正具 | 教育部審議監兼文化財課長 | 坪根　伸也 |
| 企画部審議監 | 高橋　賢次 | 教育部次長 | 桑野　徹 |
| 企画部次長兼企画課長 | 小野　晃正 | 教育部次長兼総務課長 | 高田　隆秀 |
| 国際課長 | 渡邊　裕美 | 学校教育課参事 | 江隈　英明 |
| 国際課参事 | 岡本　健 | 学校教育課英語教育推進室長 | 坂本　浩二 |
| 企画課参事補 | 足立　威士 | 教育総務課参事 | 梶取　隆之 |
| 企画課主査 | 上杉　幸喜 | 教育総務課参事補 | 黒木　眞由美 |
| | | 教育総務課参事補 | 三嶋　みどり |
| | | 教育総務課主査 | 園田　哲也 |

4. 次　第　　(1) 開　会

(2) 議　事

次代を担うグローバル人材の育成について

(3) 閉　会

| | |
|---|---|
| 開会<br>企画部長 | 皆さん、おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから、令和３年度第２回大分市総合教育会議を開会いたします。<br>会議の進行を務めさせていただきます、企画部長の伊藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。<br>なお、本日は、岡野委員におかれましては、都合によりご欠席されておりますので、ご報告いたします。<br>それでは初めに、本会議の議長であります、佐藤市長からご挨拶申し上げます。 |
| 市長 | おはようございます。ご多忙にもかかわらず、令和３年第２回大分市総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。<br>前回の会議でＳＴＥＡＭ教育等の話も出ましたが、本日はグローバル人材の育成ということで、廣津留委員にご講演いただき、そして大分市の取組も紹介させていただきまして、ご議論いただければと思います。<br>これから社会に羽ばたく人材をどうやって育てていくか、大変重要な課題でございます。廣津留委員は皆様ご存知の通り、様々な国際的な場で活躍されている方ですので、いろいろな話をお聞きできるのではないかと大変期待しております。よろしくお願いいたします。<br>コロナの関係で一言だけお話をさせていただきますと、ご存知の通り全国で非常に増えており、全国的には第５波になっております。大分県と大分市も少し増えてきておりますが、全国と比べると抑えられています。しかし、東京や大阪で増えると２週間もすると大分も増えていますので、一層の警戒が必要でございます。<br>抗原検査センターが検疫所として重要な役割を果たしておりまして、連休前に設置して、今まで90人ぐらい陽性者が出ております。先日もお子さんが大分に戻ってくるということで、空港まで迎えに行き、その足で抗原検査センターに行き、検査したら陽性だったということで、抗原検査センターが無ければ、家族全員が感染ということも考えられます。また、大分で就職先が決まっていたそうですが、就職先に挨拶に行っていれば、そこで感染が広がる可能性もあったわけで、今のところ水際でかなり防ぐこと |

| | |
|---|---|
| | が出来ております。これからお盆の時期に入り人の移動も増えます。大分は産業都市ですので、大都市から出張などありますが、そういう時には、抗原検査センターで検査してから活動していただきたいと思います。<br>　それから、抗原検査キットの購入補助も行っておりますので、活用していただければと思います。<br>　また、ワクチン接種も進んできました。高齢者の場合、1回目が80%程度、2回目も60%ぐらいとなっており、7月中にはほとんどの高齢者が接種していると思います。さらに、8月中旬までには、13歳までの方全員に接種券を配付するということになっております。ワクチンを接種した人は、接種していない人と比べて、罹患しにくいというデータも出ています。もちろん強制ではありませんが、ワクチンを打ちたい方には、出来るだけ早く打てるようにしっかりと進めていきたいと思っております。<br>　廣津留委員におかれましては、Summer in JAPANの開催中で大変お忙しいところですが、講演をお引き受けいただきありがとうございます。それではよろしくお願いいたします。 |
| 廣津留委員 | 　皆さんおはようございます。<br>　本日は、次代を担うグローバル人材の育成ということで30分ほどご講演させていただきます。<br>　たくさんお伝えしたいことがありますので、お付き合いください。<br>　グローバル人材ということがさかんに言われていますが、語学が出来れば自然にグローバル人材になれるかというと、そういうことではありません。海外で生活していて、どのような態度、マナー、心構えを持っている人がグローバル人材と私の目には映ったかということについてお話をしたいと思います。<br>　自己紹介ですが、大分市生まれで、小中高と大分の公立を卒業して、2012年から2016年までハーバード大学、その後、ニューヨークのジュリアード音楽院で修士課程を終わらせまして、その後しばらくニューヨークで活動しておりましたが、コロナで日本に帰国しております。<br>　現在は、演奏活動やコメンテーター、大学の講師をしております。<br>　今ちょうどSummer in JAPANというサマーキャンプが大分市で開催中でして、8月1日から7日まで、その後、大分市とのワークショップを企画しております。<br>　本日は、まず「米国の大学生活で何を学んだか」という話、次に「世界という舞台で求められる人材とは何か」、そして「可能性を広げる教育」について、最後に「これからを生きるために」の4つのポイントでお話をさせていただきたいと思います。<br>　まず、ハーバードでの生活はどんな感じかということですが、少し写真 |

| | |
|---|---|
| | を交えて話します。マサチューセッツ州ケンブリッジにある大学で、１学年に 1,600 人ほどいます。1 年生は、学部を選ぶことなく、2 年生の終わりに専攻を選択できるようになっています。<br>　私は最初に専攻を応用数学にしていましたが、そのあと社会学にしたり、音楽にしたり、グローバルヘルスにしたりと、自分の興味によって変えられることがすごく大きな特徴になっています。<br>　この写真は、ハリーポッターのモデルになっている大きな食堂ですが、1 年生全員この食堂を使います。この写真も私が 2 年生から 4 年生まで住んでいた寮で、1 つの寮にだいたい 400 人くらい住んでいます。将来隣にいる人が大統領になるかもしれないし、どこかのトップになるかもわからない。そのような人と一緒に学び、一緒に生活することができるかなり充実した寮生活でした。98%くらいの学生が寮生活をしています。<br>　ハリーポッターをご存じの方は分かるかもしれませんが、学校の中でのフェスティバルみたいなもので、どの寮になるか決まるのですが、私の寮はヘラジカがマスコットでした。ヨーヨー・マという世界的なチェリストがハーバードの同窓生でいまして、この写真は、ヨーヨー・マが来て一緒に演奏したときのものです。右下は、私がプロデューサーとして関わったミュージカルの写真ですが、学業だけではなく、課外活動を何か１つしている学生が本当に多いです。左上の写真は、入学式１週間前にオリエンテーションとして１つのミュージカルを作るというものです。学業だけではなく、私の場合は芸術ですが、演劇、音楽、器楽、歌など、何かに優れているという学生がすごく多かったことが、かなり衝撃でした。<br>　これは、卒業式のステージから見た写真ですが、学部から大学院まで皆が同じ卒業式を過ごしますので、かなり圧巻ですね。私は校歌をステージで演奏したので、上から見ることができて印象的な思い出です。<br>　ジュリアード音楽院時代の話ですが、ジュリアード音楽院は、ハーバードと環境が違って、皆さん音楽のフィールドで戦っている人で、ジュリアード音楽院を出たからと言って、みんなが成功するわけではないという厳しい世界を目の当たりにしたのが、ジュリアード音楽院時代でした。<br>　ハーバード大学時代の１日をお見せしたいと思うのですが。よくある寮の写真です。ベッドと机とタンスがあって、ひたすら勉強をしておりました。これは、マイケルサンデルの NHK の授業で見たことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、私もここで授業を受けましたし、大講堂での授業も多いです。<br>　食堂でランチを取った後、例えばヨーヨー・マが室内楽を教えに来てくれたり、大講義だけでは一人一人の生徒に届かないので、少人数の授業がたくさんありまして、15 人ぐらいで、とにかくディスカッションを進めるような授業が特に多かったです。1 つの授業で週３回の授業がありますが、 |

| | |
|---|---|
| | 1つは大きい講義で、2つは大学院生がＴＡとして教える少人数のクラスですが、これが大変効果的で、やはり一人一人発言をする機会がないと、自分から何か意見を述べるという癖がつきませんので、この少人数の授業が、リベラルアーツの大学では大事なところかなと思います。一人一人の意見を引き出すというものが、この少人数の授業でなされておりました。<br>夕方になると、課外時間になりますので、左の写真は、私がコンサートマスターを務めていた学内のオーケストラのリハーサル、右の写真はジャパンソサエティという日本の文化を伝えるような団体での活動の様子です。このように皆さん夕方に課外活動を行い、ハーバード大学には24時間開いている図書館がありますので、夜10時ぐらいに行くと、だいたいの友達が宿題をしていました。「今日も頑張ったよね」みたいな感じで、皆が一緒に頑張っているので、自分もやる気になる素晴らしい環境が整っておりました。私は朝が苦手なタイプだったので、夜型でかなり勉強していました。こういう一日を過ごしていました。<br>何をそこで学んだかということですが、皆さん本当に自信がありまして、例えば、食堂で皆と宿題をしているときも、違う分野のトップがたくさんいるという環境でした。そうすると、お互いを高め合える人脈が作れますし、皆さん自分の分野に対してすごく自信があるので、人のことについて嫉妬したりすることもなく、自分に自信があるから他人をリスペクトすることが出来ます。他人への尊敬の念が、すごく感じられる素晴らしい環境だったと思います。それを通してやはり思うのは、自分に自信を持っていると他人に対して何も羨むことがないので、例えばサイエンスに論文が載ったとか、フェンシングの試合で世界一になりましたとかということがあった時に、心からみんなお祝いが出来るというそういう精神の面がすごく大きかったです。お互いにリスペクトが生まれるということが自然な環境でしたが、そうではない環境の場合は、やはり大人が見本になって、何か人にいいことがあった時に「心から祝えますか」というのを、大人が模範になって示すべきだと思います。そういう大人を見て育つと、自分に自信を持っていれば、人に何か良いことがあった時も心から祝えるし、嫉妬したりという気持ちも無くなるので、自己肯定感も上がるというところがあります。自分が尊敬してもらいたいと思うためには、自分が人を尊敬することから始めなければいけないというのが、私が一番学んだことでした。<br>人と比べるのではなくて、昨日の自分をいかに超えられるか、そこに皆さんフォーカスしていた印象があります。ハーバード大学の同級生もそうですが、皆さん凄いので、敵う気もしません。自分が1つやっていることがあれば、それをひたすら昨日の自分を超えるように、勉強であれ、課外活動であれ、努めておりました。<br>さきほど少人数の授業がありましたが、アメリカの大学の出席点という |

| | |
|---|---|
| | のは、席に座っているだけでは、出席点になりません。そこで発言をしないとそこにいるとは見なされないので、発言しない人はそこに存在しないと同じというかなりシビアな環境です。また、個人攻撃とクリティカルシンキングの違いとありますが、少人数でのセッションや会議でも、批判と言うとネガティブなイメージを持つかもしれませんが、何かを良くするためには良くないところを指摘しないといけません。ここで遠慮することなく、建設的な批判をする。それをしたところでお互い個人攻撃ととらえないというところが、ディスカッションの一番大事なところだと思います。<br>　これは社会に出ても当然そうで、会議に出ても何も発言しないと「その人は、ここにいて意味があるのだろうか」という考えになりますし、学校でも、あの人は私に対して批判したから私のことが嫌いなのかと思わせてはならないと思います。何か良くないことを指摘するのは、ネガティブなことではないということを凄く学びました。<br>　先ほどジュリアード音楽院のことを少しお話ししましたが、よい学校を卒業したからと言って、仕事に就けるわけではないと思います。これは、学生生活にも言えることで、例えば、よい大学、偏差値の高い大学に行ったからと言って、必ずしもよい仕事に就けるわけでもないし、これからはセルフブランディングが凄く大切になります。ジュリアード音楽院でも、すごく音楽が得意で、演奏は上手いが、それをどう発信するか知らないために埋もれてしまって、世界の舞台に立つことができない人がたくさんいます。どんな職業でも同じだと思いますが、学力で世界で勝とうと思ったらなかなか大変で、どうやって自分のことを世の中に発信するのかということを育むような教育をしなければいけないと改めて実感しました。ジュリアード音楽院の先輩でも、ソーシャルメディアやユーチューブチャンネルを使って発信している人の方が、すごく目立って上手くいっているなという印象で、そこでかなり創造力について実感しました。<br>　そして、世界という舞台で求められる人材についてですが、一概に言うことは難しいですが、まず基本はマナーです。日本に帰ってきて、いろいろな方とご挨拶することがありますが、相手の目を見て名刺交換が出来ている方が意外と少ない印象があります。やはり自分の名前をきちんと名乗って、ちゃんと目を見る。名刺交換するにしても、握手するにしても、最近は握手するのは出来ないかなと思うのですが、とにかく第一印象がいかに重要かということも学びました。そして、人間ですので、名前を言われて嬉しくない方はいません。交渉術やコミュニケーションに長けている人は、自分の紹介もちゃんとするし、相手のことをすごく尊重するので、相手の名前を必ず覚えて目を見て話すことをしっかりされていると思います。<br>　当たり前のことだと思われるかもしれませんが、当たり前のことが本当 |

| | |
|---|---|
| | に出来ているか、グローバルな目線で立つと、これでうまくいっているか、いっていないかは決まる気がします。<br>　話し上手がコミュニケーション上手かと言われると、そういうわけではないと思います。これからすごくクリエイティビティの時代で、何か好きなことを情熱を持って語ることができるかどうか、これはすごく大事なところです。例えば、筋トレ、映画、ネットフリックス、スポーツ、自国の文化などは、世界共通の話題であり、これは語学力の問題ではなく、自分のパッションが相手に伝わるかどうか、これは本当にグローバルに相手とコミュニケーションするツールになると思います。<br>　もう１つ、これはなかなか理解が難しいですが、「ルールは破るためにあって、契約書は交渉するためにある」ということです。アメリカは契約社会なので私もなかなか鍛えられて、演奏の時にはどのように契約書を作るかを弁護士の方がわざわざジュリアード音楽院に教えに来てくれていました。それほど契約は社会に大切なもので、自分に不利な状況であれば黙るのではなく交渉で打開する、そういう人材がこれから必要だと思います。これは社会に出て、契約書を作る時だけでなくて、学生生活の時から、これは自分にとって良くないと思ったら、ルールだからといって諦めるのではなくて、交渉に持っていくことも可能性としてあるということを伝えることが、これからすごく大事なことかと思います。また、交渉に強くならないとグローバル社会で戦えませんので、小学生、中学生の頃から、もし自分に上手くいかない状況があったら、どうにかそれを交渉して、自分にとってよい方向に持っていく方法がないかどうかを自分で考えさせることがすごく大事な部分だと思います。<br>　あとは、「遠慮しない人材」で、アメリカと日本を足して２で割ったらちょうどよいぐらいではないかと思いますが、空気を読みすぎることなく言うべきことは遠慮せずに言った方が、信頼度が上がるというのは、卒業して仕事を始めてから思いました。愛想笑いでこなすのもよいですが、それでは相手に真面目さが伝わらないので、こっちは真面目に話しているというのを伝えた上で、本音を伝える方が信頼度は上がります。同調する方がよいのではなくて、同調しながらも、自分が譲れないポイントがあったら、自分の言いたいことをちゃんと言うということが大事なのかと思います。普段から積極性を培って、とにかく自分のことをアピール出来るかどうか、これがグローバルな舞台では大切かと思います。<br>　次に多様性についてですが、大坂なおみ選手がブラック・ライブズ・マターの時に殺害された人の名前をマスクに載せたり、気候変動を訴えるデモも世界中で起きたりしています。多様性という言葉はどこでも聞くワードになりましたが、多様性がなぜ必要なのかを知る必要があると思います。男女やＬＧＢＴ、様々なマイノリティや人種も入れたのでよいと言ってし |

| | |
|---|---|
| | まっては、元も子もない話だと思っていて、意思決定する段階で多様性が大事になります。例えば、１年ぐらい前、ＺＡＲＡというファッションブランドが、メキシコの刺繍を型どったようなデザインを服に載せたら、文化の盗用だとメキシコ政府に訴えられた事件がありました。文化や文化の盗用に詳しい人が意思決定の場にいたら、もしかしたら防げていたかもしれません。また、これもファッションブランドのＨ＆Ｍですが、商品サイトに、ジャングルで一番クールなサルと書かれた服を着た黒人の子どもを載せていたのです。普通に考えればダメなのは分かると思います。でもそういう視点を持ち合わせていない人達が意思決定してしまうとそのようなことが起きてしまいます。今はジェンダーニュートラルのお手洗いが増えていると思います。ジュリアード音楽院にも、誰でも使えるお手洗いが増えていて、マイノリティの方がどう思うか、男女も今では２つには分けられない時代です。そういう方にどのように配慮するか想像力を持っていないといけない時代になったので、そういう方からヒアリングをしてマイノリティの気持ちが分かるようになるということが一番大切になってくるのかなと思います。<br>　多様性については、アメリカに住んでいるだけで毎日が勉強でしたが、今でも間違えてしまう事もたくさんあります。例えば、パブリックの場で発言したり、商品を出すときにそういう間違いをしていたら本当に命取りになりかねません。<br>　ジェンダーとか人種とかいろいろありますが、例えば、白人を見てこの人は日本人ではないと決めつけたら、実は見た目は白人だけど、日本生まれの日本人かもしれないとか、「彼氏いるの」と言っている時点で相手が異性を好きだと決めつけることになるとか、お互いに共同でやっているはずなのに、家事や育児を手伝うというのは、どういうことなのか。女性に色白で凄く痩せていて綺麗だねと言ったら、その人はもしかしたら痩せていることがコンプレックスかもしれないとか、挙げればきりがありませんが、このように何か言う前に一瞬クッションを置いて、相手を傷つけていないかと想像力を働かせること、この大切さを毎日身をもって感じていた海外生活でした。例えば、バイデン大統領が決まった時にカマラ・ハリスが副大統領候補になった際も、日本では特にそういう見出しが多いですが、「美人過ぎる副大統領」と出ていました。候補というのは能力で決まるのであって、美人だからなったわけではありません。私もニューヨークに住んでいたときは、ハーレムの端に住んでいたので、黒人が多くて怖くないかと言われたことがありました。でも、それは、黒人は危ない人と決めつけた考えですので、良くないですよね。毎日何かを言う前に立ち止まって考えることを大切にしなければいけないというのが多様性の大事なところかなと思います。 |

| | |
|---|---|
| | これから様々なバックグラウンドを持っている人と仕事をすることが増えると思いますので、想像力を働かせることが大切だと思います。子どもたちや若い世代の方が分かっていることもあるかもしれないですけど、やはり大人が模範となり理解があるということを示していくことはとても大事なことと思います。<br>そして、子どもたちの可能性を広げる教育についてですが、今の時代、仕事というのは、いい会社に就職できればよいということではないと思います。今回のコロナで、今まで順調だった業種が、突然これからどうなるか分からない状況に陥っています。性格面、仕事面、日常面、誰しも必ず得意分野があると思いますし、その秀でているスキルがあれば仕事になる。これは間違いありません。安定している職業に就かなければと考えると思いますが、安定している職業はもうありません。とにかく家庭では、何か秀でているものをひたすら伸ばすという褒め方、伸ばし方をしなければいけないと思います。<br>「Think outside the box」は、直訳すると「箱の外で考える」という意味です。決まったマニュアルの中で考えるのではなくて、それを飛び出してクリエイティビティとかイノベーションを起こすという意味です。これを日頃から練習していたら、ルールだからという勝手な固定概念がどんどん壊されていき、こういう仕事もあるのかとか、こういう勉強の仕方があるのかとか、こうやったら学力が上がるんだとか、いろいろな発見が出来ると思います。例えば、これはチームラボの展示で、六本木にあるチームラボサウナという映像です。水は上から流れているけど、光を当てるとストロボ効果でなぜか上に上がっているように見える不思議な現象です。ただの一例ですけど、「Think outside the box」固定概念をひっくり返すような考え方を日頃からしようということです。<br>常識はただの主観ですので、世界の常識というものは無いと思います。今までこうだったというのが、常識かと思いがちですが、今日の常識は明日には時代遅れです。今日考えていたことが、明日には覆っているかも分からないので、常にオープンマインドで多様な考えを受け入れられるようにしなければならないと思います。子どもたちに対しては大人が思っている常識を押し付けてはいけないと思います。今日の常識は明日には時代遅れということは、私も自分に言い聞かせるようにしています。<br>私は大学で教える時に必ず授業の冒頭に、「ここは、セーフスペース、すごく安全地帯なので、どんな意見、質問を言っても先生やお互いの生徒から批判されることは絶対ないよ」と、必ず言うようにしています。家庭や友達などに頼ることができないお子さんは必ずいるので、何か１つでもここは安全な場所だということを伝えてあげることが、すごく大事だと思います。そうすることによって、何をやっても受け入れてくれるんだという |

| | |
|---|---|
| | 安心材料にしてあげることで、少し変だなと思うことでも、大人が気づきやすくなりますし、安心できる場所を提供してあげるということが、すごく大事だと思います。<br>　コロナの関係で特にこもりがちで、他に救いを求める場所がない方もいらっしゃいますので、これは学校だけではなく家庭でもいいと思いますが、例えば、1日の中に時間を設定して、このときだけは、本当に何があっても絶対怒らないし、絶対聞いてあげるからという時間を設けることや、安全地帯、安全な時間などを設けるということは、1つのやり方だと思います。<br>　あとは、外の世界に触れる機会です。今申し上げたように、やはりこもりがちになっているので、コミュニティを広くすることも大切です。部活をやっていて、交流試合で他校の方と会うこともありますし、音楽のコンクールで他県の人と会うなど、コミュニティをどんどん大きくしていくことによって、視野が広がっていくと思います。そういう機会をどんどん子どもに与えることが使命かと思います。これは、学校、家庭、社会からサポートできることではないかと思います。<br>　「小中高校時代に大分で何を学びましたか」とよく聞かれます。人間性が1番大事になってくると思います。私は、小中高と公立でしたが、小中は本当にいろいろなバックグラウンドの学生がいます。いろいろなバックグラウンドを持った人とコミュニケーションする力というのは、私は小中の間に身に付けたと思います。コミュニケーションをとる術を身に付けておけば、将来どんな状況にあっても臨機応変に対応することが出来ると思います。バイオリンという学業以外の何かに熱中できるもの、それは部活やスポーツなどなんでもいいと思いますが、それがあったことによって、コミュニティも広がりましたし、世界はここだけではないと自分を追い詰めることもないし、何か上手くいかなかったときに、もう1つの場所に自分のモチベーションを求めたりすることが出来たので、それもすごく良かったです。私の場合は、バイオリンにすごく時間をかけていたので、学校というコミュニティがあることがすごく嬉しかったし、高校の時はお弁当の時間が毎日楽しみでした。そのようにいろいろなコミュニティに属していることと、いろいろな人とコミュニケーション出来るということが、私の中ではすごく大事だったと思います。<br>　最後に、市長からお話がありました、ＳＴＥＡＭ教育についてですが、芸術を学んだら、子どもの成長にいいとよく言われます。ヨーヨー・マが言っていたことですが、今の世界で大事なことは、芸術を通して学べる4つのこと、コラボレーション、柔軟性、想像力、そしてイノベーションであると、なぜ芸術を通して学べるかというと、楽器を弾くためには人のことをちゃんと見ていないといけない。一緒にするにはどうやってリズムを |

| | |
|---|---|
| | とるとか、どういうふうに人と感覚を共有するか、そして柔軟性、臨機応変に対応できる力がないといけない。想像力は今日たくさん話をしました。イノベーションは今までのことにとらわれずにどんどん新しいものを作っていく力が大事だということです。さらに、もう一つ大切なものがあって、エンパシー、共感力です。他人がいま何を考えているかを想像する力というふうにおっしゃっていました。そうだよねとただ寄り添ってあげるのではなくて、人がいまどういう状況を乗り越えているのか、何を考えているのかを察して、思いやりを持って自分の発言をする、そういうことが、このエンパシーの中に含まれているのかと思います。<br>まとめになりますが、これからは、本当に今日の常識は明日には時代遅れ、ルールを守る力というよりも創造力、どんどん新しいものを作る、人を思いやる想像力、そして共感力を身に付けて、自然にイノベーションを起こす環境を作るべきではないかということが、私流、次世代の人材の育て方という事です。<br>駆け足になってしまいましたが、以上で終わりにさせていただきます。ありがとうございました。 |
| 市長 | 廣津留委員、誠にありがとうございました。<br>グローバルなご経験から日々の生活も考えないといけないですね。いろいろなご提言をいただいたと思います。<br>次に大分市のグローバル人材の取組を事務局から説明し、その後、併せて意見交換をさせていただければと思います。<br>それではよろしくお願いいたします。 |
| 国際課長 | 国際課長の渡邊でございます。<br>国際課におけるグローバル人材の育成について、ご説明いたします。<br>お手元に配布の A3 資料「第 4 次大分市国際化推進計画等」をご覧ください。<br>本市では、国際交流・国際協力の促進、多文化共生の実現を目指し、平成 18 年に「大分市国際化推進計画」を策定しております。今回、大分市をとりまく現状や市民のニーズに合わせ、今年度から令和6年度を計画期間とした「第4次大分市国際化推進計画」を策定しました。<br>まず、1. 理念と方針についてですが、 本計画では、「世界にチャレンジし続ける グローバル都市 OITA」を基本理念とし、基本方針として、国際交流・国際協力を推進するとともに、グローバル人材の育成や共生社会の実現に取り組みます。<br>また、民間の活動を積極的に支援するなど、市民との連携により、本市の個性や魅力を生かした国際化を推進します。としております。<br>次に、2. 計画の体系につきましては、「国際交流・国際協力」 と「多文 |

| | |
|---|---|
| | 化共生」の２つの推進テーマを柱としております。<br>「国際交流・国際協力」の下には、「グローバル人材の育成」「国内外から人々を惹きつける魅力あふれるまちづくり」「地域の産業の活性化につながる国際ビジネスの推進」「持続可能な世界の実現のための国際協力・国際貢献の推進」の４つの施策を、「多文化共生」の下には、「人権尊重を基調とした多文化理解の促進」「あらゆる国籍の人々が共に活躍できる環境づくり」の２つの施策を設定しており、それぞれに目標を掲げ、さらに、具体的数値目標を設定することで、進捗状況の確認や検証を実行してまいります。<br>また、推進するにあたっては、国際関係団体や大学等教育機関、市民等とネットワークを構築し、様々な主体の活動を通して国際化を推進していきます。<br>次に、特に、本日の議題でもあります、3. 施策１　グローバル人材の育成につきましては、外国人と交流し世界へ目を向けよう。国際化の情報に関心を持とう。の２つの目標を掲げ、これまでも、外国語指導助手（ALT）を活用した英語教育や、青少年国際理解推進事業、留学生活用事業、ハーバード大学生との交流事業、など様々な事業やイベントを通して、青少年が外国人と交流する機会を創出するとともに、国際的な視野を育むことができる事業を推進しております。<br>次に、資料右側、4. 国際課の主な取組を紹介させていただきます。<br>おでかけ ENGLISH～留学生と英語で遊ぼう～についてですが、市内幼稚園、保育園等に留学生を派遣し、簡単な英語を使ったゲームなどをしながら、子どもたちに海外の文化や言葉に触れ合う機会を創出することで、視野を世界に広げ、チャレンジ精神や多様性を受け入れる力を身につけることを目的に行っている事業です。<br>また、この交流事業は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、アルバイト収入等が減少している留学生を支援し、収入を得る機会を提供しています。<br>次に、ワールド・クエスト・イン・OITA についてですが、小学生が ALT や留学生と一緒に簡単な英会話を楽しみながら、なぞ解きに挑戦することで、外国人と直接触れ合うことができる機会を創出しています。<br>参加した子どもたちへのアンケートでは、「知らないことがいっぱいだったので、たくさんのことを学べた」、「英語が分からなくても楽しめた」、「もっといろんな国の文化について知りたい」などの感想がございました。<br>昨年度の総合教育会議におきまして、多くの子どもたちが参加できるようにとのご意見をいただきましたことから、今年度は、参加人数を２倍に拡大し、9 月 23 日と 11 月下旬の２回実施することにします。<br>次に、ハーバード大学生との交流事業についてですが、一般社団法人 Summer in JAPAN との共催で、大分市内の小中学生がハーバード大学の学 |

| | |
|---|---|
| | 生から、アメリカの大学生活や将来の夢などの話を聞き、簡単な英語ワークショップを行うハーバード学生と交流できる事業です。<br>　昨年度の参加者からは、「将来は英語を得意として海外に行きたい」「アメリカの学校にも興味が湧いた」「今日の経験を生かしていろいろなことにチャレンジしたい」などの感想がございました。<br>　写真は初年度の令和元年に能楽堂で、実際にハーバード大学生が大分市を訪問し一緒に英語を学ぶなどの交流を行った様子です。<br>　今年は８月８日今度の日曜日にｊ：ＣＯＭホルトホール大分で開催する予定にしております。<br>　次に、おおいたワールドフェスタについてですが、国際協力、国際交流にかかわる団体等が一堂に会し、様々な国の文化に触れ合い、世界を身近に感じてもらうことを目的とする市民を対象にした事業です。<br>　昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場での実施を中止し、大分市国際課フェイスブックページにて、おおいたワールドフェスタ 2020 オンラインを実施し、様々な団体、大学の協力のもとに 16 団体の動画を掲載し、国際交流や国際協力等のＰＲを行いました。<br>　今年は 10 月 30 日土曜日に、お部屋ラボ祝祭の広場で行う予定です。<br>　次に、姉妹・友好都市交流についてですが、大分市はポルトガルのアベイロ市、アメリカのオースチン市と姉妹都市、中国の武漢市と友好都市、また、中国の広州市と交流促進都市の関係にあります。そこで、この交流関係を活用し、車いすマラソン選手との交流会やサッカー大会の開催、おおいた夢色音楽祭参加ミュージシャンとの音楽交流を行ってまいりました。<br>　以上のような交流活動を通じて国際交流、グローバル人材の育成を推進しているところでございます。<br>　最後に、今後のグローバル人材の育成に向けてについてですが、豊かな国際感覚を持ち、世界で活躍できる青少年を育成するために、身近な国際化の情報に興味を持ち、国際的な視野を育むことができる事業を推進してまいります。<br>　また、現在、渡航を伴う交流事業は縮小しておりますが、オンラインを活用したハーバード大学生との交流会や留学生の料理教室を開催するなど新たな試みを行っております。<br>　以上で国際課の説明を終わります。 |
| 学校教育課参事 | 　学校教育課参事の江隈でございます。<br>　お手元の配布の資料「大分市立小中学校における次代を担うグローバル人材の育成」をご覧ください。<br>　本市におきましては、国が示している「グローバル社会を生き抜くために重要とされる力」等を踏まえ、大分市総合計画「おおいた創造ビジョン |

| | |
|---|---|
| | 2024」第2次基本計画をはじめ、大分市教育ビジョン2017第Ⅱ期基本計画、令和3年度大分市学校教育指導方針等の計画において、グローバル人材の具体的な姿を描き、その育成に取り組んでいるところでございます<br>続きまして、教育委員会における事業について、ご説明いたします。<br>1つ目は、「武漢市学校交流事業」についてございます。<br>本事業は、昭和54年に大分市が中国武漢市と友好都市を締結以降、交流を深める中で、平成24年度から武漢市の中学生を本市に受け入れる交流活動と本市中学生を武漢外国語学校に派遣する交流活動を行っているものでございます。<br>これまでの参加生徒数等は、資料、左下の表に記している通りであります。<br>これまでの参加生徒の声といたしましては、「他の国のことを理解しようと努力することを続けたい」といった「異文化に興味・関心を持ち、理解していこうとする意欲」や「今まで気付かなかった日本の良さが見えてきた」といった「自国の文化に対する興味・関心」などに関するものがございました。<br>2つ目に、「外国語指導助手（ＡＬＴ）招聘事業」についてでございます。<br>資料、右上をご覧ください。<br>本事業は、平成5年度から、英語教育の一層の充実と国際理解教育の推進を目指し、令和3年7月20日時点において21名の配置させていただいております、ネイティブ・スピーカーである外国語指導助手を活用することにより、児童生徒が外国の文化や言語に触れ、それらに対する興味・関心・意欲を高めながら、コミュニケーション能力を育成することを目指しているものでございます。<br>配置人数でございますが、事業開始の平成5年につきましては1名でありましたが、平成17年には12名、平成29年には21名、令和元年には31名、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響はあるところでございますが最終的には、35名を予定しているところであります。<br>なお、成果といたしましては、資料中の折れ線グラフにありますように、黄色グラフ線の「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」青いグラフ線の「聞くこと」が、平成30年度以降著しく向上しており、本市の子ども達が、ＡＬＴを活用した英語教育を通じて、着実に力を付けているものと考えております。<br>3つ目に、その他、学校独自の具体的な取組といたしましては、先ほどご説明した武漢外国語学校以外にも、武漢市の小学校との交流活動をはじめ、立命館アジア太平洋大学学生との交流活動、大分国際車いすマラソン選手との交流活動、更には、ラグビーワールドカップ2019開催の際にも、ウルグアイ代表選手及び同行していたラグビー協会所属のウルグアイの中 |

| | |
|---|---|
| | 学生と本市の中学生が交流活動を行った取組などがございます。<br>　このような取組を通しまして、児童生徒は、異文化に対する興味・関心を高めるとともに、学習した英語を用いてネイティブ・スピーカーとコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めているものと考えております。<br>　今後は、本市英語教育において、引き続き、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の向上を図りながら、「聞くこと」、「読むこと」といった受容力の育成とともに授業内外におけるネイティブ・スピーカーとの交流等を通して、「話すこと」、「書くこと」といった発信力の育成にも力を注ぎ、コミュニケーション能力の育成に努めてまいります。<br>　加えて、武漢市との交流を起点に異文化交流の促進を図りながら、自国の文化の理解を深めるとともに、異文化を理解し、尊重するなど、国際的視野に立って主体的に行動する資質・能力を備えたグローバル人材の育成を目指してまいります。<br>　英語教育の充実に向けた教員の指導力向上につきましては、本市教育センターによる英語教育研修を実施するとともに、平成 30 年度に学校教育課内に設置いたしました英語教育推進室の指導主事等が授業力向上アドバイザーと連携し、本市全小学校 54 校及び義務教育学校 1 校に学校巡回訪問指導を実施しているところでございます。<br>　あわせて、英語教育に関する本市独自の専門人材である教科指導マイスター、イングリッシュ・アドバイザーの各学校への派遣等を通し、小学校と中学校の英語教育に携わる教員の更なる指導力向上に向け、引き続き、尽力してまいります。<br>　以上でございます。 |
| 市長 | 　ありがとうございました。<br>　国際課と学校教育課の施策をご紹介させていただきました。<br>　このような施策を行う上でも先ほどの想像力・共感力ということが求められるかと思いますが、廣津留委員からの話や大分市の施策に関するご質問・ご意見等よろしくお願いしたいと思います。 |
| 古城（一）委員 | 　廣津留委員、大変ありがとうございました。<br>　2 点ございます。<br>　1 点目ですが、私も長く経営をさせていただいておりますが、ダイバーシティとハラスメントの 2 つに悩んでいますのでアドバイスをいただきたいと思います。以前なら遠慮せずにいろいろ指導できていましたが、なかなかできない時代ということと、想像力を働かせながら、気をつけながらやっています。そのバランスというのは、どのように考えればよいのでしょうか。 |

| | |
|---|---|
| 廣津留委員 | 本当に難しいと思いますが、対外的にやるのか、それとも中で議論を戦わせるのかというのが、最初の考えかと思います。その中でまずは、「こういう事はダメ」「こういう事はよい」など、柔軟に議論を戦わせる環境を作るのが最初のステップです。やはりパブリックになると、かなり気を使いますので、なかなか言えないと思います。何を言ってもよい環境にすることが必要です。 |
| 古城（一）委員 | 心がけます。ありがとうございました。<br>もう１点、ここ数年、私たち経済の関係で人材不足というところを感じます。優秀な人材の方は、ハーバード大学生の交流事業など、積極的に参加されると思います。大分に残る方の多くが、いわゆるミドルの人材だと思うのですが、そういう学生にこそ、そのような場を提供していかないといけない。私たちには関係ないという方が大分に残ったらアジアとかの交流は進められませんので、アッパーの方より一番ボリュームのあるミドルのところに、国際感覚をどのように身につけさせていくか、とても重要なことではないかと思います。ご見解などいただければ幸いです。 |
| 廣津留委員 | 一度海外に出てしまうと戻らないということは絶対にないですし、私もすごく地元が好きなので、やはりこうして戻って来ていることが多いですが、やはり一度出てみる事は大事ですね。ただ、戻って来るモチベーションがどこにあるかという事だと思います。最近、スタートアップハブとかも増えていますし、ただ都会にいればよいという考え方は無くなっています。大分に戻って来るモチベーションをいかに創出するかに尽きると思います。イノベーションを起こしている人が周りにいるかとか、頑張っている方の発信も大切ですし、やはり、こういう人みたいになりたいというロールモデルが、学生やちょっと上の世代にいるのかによって、かなりモチベーションが変わると思います。私も中高生時代は、周りに海外に行った人がいなかったので、かなりハードルがあったということもありました。一度外に出て戻ってきた凄く活躍している人がロールモデルとしているという事が発信出来たら、何かそういうモチベーションに繋がるのではないかと思いますけど、どうでしょうか。 |
| 市長 | 事務局の方から何かありますか。 |
| 国際課長 | 国際課長の渡邊でございます。<br>ハーバード大学生との交流事業や、おでかけイングリッシュ、ワールド・クエスト・イン・OITA などについて、英語が出来なければ参加できない事 |

| | |
|---|---|
| | 業にはしておりません。レベル分けはしておりますが、英語がこれから好きになる、英語を使えば自分の世界がもっと広がるということを子どもたちに体験していただく事業にしておりますので、英語能力の高いアッパーの子どもだけの事業にはしておりません。 |
| 市長 | ありがとうございました。<br>はい、上杉委員。 |
| 上杉委員 | 今日は、ありがとうございました。<br>以前、講演していただいた時にも、その内容を子どもに伝え、親子共々すごく学ばせていただくことが多いと感じております。現在、中学、高校の子どもがいますが、私たちが考えているよりも、１歩も２歩も先に行っている感覚がありまして、お小遣いを上げてほしいとか、なぜスマホが必要なのかということをグラフを使いながらプレゼンするのです。しかし、校則の問題について、なぜ学校でもそのように発言しないのかと言ったら、「どうせ」という言葉が出まして、「どうせ却下される」とか「エネルギーを使っても自分が在籍している間にはどうせ実現しないだろう」と、そういう考えや思いというのは、私たち大人の責任だと痛感しておりまして、マニュアルやルールがあるかもしれないけど、それは破ってなんぼだという感覚を持っている生徒さんも多いだろうと凄く思います。<br>お話とは違うかもしれませんが、学校から来るアンケート等に性別をチェックする欄があり、娘が男の子か女の子かの２つしかなかったと言いました。当たり前と思っていることに対し、クエスチョンマークをつける感覚のお子さんがやっぱり増えているのだろうなと感じました。その思いをやっぱり私たち大人が汲み取って、こちらが持っているメジャーで話すのではなくて、一緒に新しいメジャーを構築する感覚を私たちも持たなければという思いを強く持ちました。本当に今日はありがとうございました。 |
| 廣津留委員 | １点目については、やはり生徒同士が議論して、それを大人が聞いてくれる、聞いてくれたという経験が自信になると思います。やはり、一人一人の意見が本当に採用されるということを伝えないといけないと思いますし、その「おやっ」と思ったことをもみ消すのではなくその「おやっ」と思ったことはすごいことだと、学校にしても家庭にしても社会でもそうだと思いますけども、必要だと思います。<br>２点目については本当にその通りだと思います。 |
| 市長 | はい、ありがとうございました。<br>それでは、いかがでしょうか。 |

| | |
|---|---|
| 古城（和）委員 | 先ほどの古城一委員と少し重なるのですが、グローバル人材の育成と言いながら、私たち大分県人、大分市民としては、グローカルな国際感覚を持ちつつ、県内、市内で働いて、戻ってくれるような人を育成したいというところが頭の片隅にあります。廣津留委員もアメリカに行き、大分に帰って来られた。ロールモデルがなかったとおっしゃいましたが、何がそうさせたのでしょうか。郷土愛とかに繋がってくるのかと思いますが、小中高の間の体験がそうさせているのでしょうか。 |
| 廣津留委員 | 私の場合、高校まで大分にいたので、地元に帰って来るとすごく落ち着きます。ところが、小学校や中学校のときにアメリカに住んで、日本に戻り、またアメリカに行くという人は、自分のアイデンティティがどこにあるのか分からなくなる方が多いです。私は大分に 18 年間いたので、大分の人というアイデンティティがあります。また、ふるさとがあるという大事さを実感しています。確かにロールモデルは周りにいませんでしたが、18 年間で受けたものを還元する方法はないかと自然に考えるようになりました。周りを見ても自分は凄く恵まれている環境にいたと思いました。 |
| 市長 | ありがとうございました。<br>今日は、講演形式の会議を開催したところですが、委員の方以外でご質問はありますか。市議会から井手口議員と甲斐議員がお見えですが、何かございませんか。 |
| 井手口市議 | 私の場合、主にブラジルでしたが 21 年間海外にいました。ただ私の場合は、ニューヨークやボストンといった世界最先端の都市ではありませんので、今日の話とは少しずれがあると思いますが、今の日本というか、今の大分の子どもたちにとって、重要な話をしてくださったと非常に感服しております。ありがとうございました。 |
| 市長 | ありがとうございました。<br>それでは、教育長お願いいたします。 |
| 教育長 | 貴重なお話ありがとうございました。<br>先ほど上杉委員からありましたが、子どもたちが「どうせ言っても駄目だから」という気持ちを持っているのでしたら、これは申し訳ないと思いました。子どもたちの気づき、情熱、エネルギーを大事にしてあげたいですし、自分たちの行動が自分たちのために、また社会のために役に立つ、改革という大きなものでもなくても、それが改善に繋がるかもしれないと |

| | |
|---|---|
| | いう経験をさせてあげたいと思いました。先ほどの話に出たクリティカルシンキングですが、この校則はこれで本当によいのか、この前提は正しいのかという疑ったうえで検証していくことはとても大事なことだなと反省したところでございます。<br>　グローバル人材について、なかなか大きなテーマですけど、まず自分自身のよりどころとして、日本人としてのアイデンティティ、あるいは日本文化の理解、併せて他文化や異文化への理解を持ったうえで、言語力を含めてそういった社会に身を置くこと、社会に飛び出すことへの勇気、主体性や積極性を育ててあげることが大事だろうと思いました。私たちの子どもの頃は外国の人を見かけることはほとんどありませんでした。今の子どもたちは、ALT の方もいますし、本当に感覚的には気後れや躊躇などはなくなっているのだろうと思っております。<br>　そういう所に飛び出す上でのハードルは、私たちの時代と比べて遥かに低くなっているわけであり、こういったことをずっと続けていくことは、将来海外で活躍するかどうか別にして、もしそういう状況が自分の周りに来たときに、躊躇せずに飛び出していけるということに繋がっていくのだろうと思いました。 |
| 市長 | 　ありがとうございました。<br>　今日は貴重なお話をいただきありがとうございました。また、ハーバード大学との交流事業では廣津留委員にご協力をいただいておりまして、感謝申し上げます。<br>　それでは、本日は、次代を担うグローバル人材の育成ににについて議論させていただきました。本当にありがとうございました。<br>　それでは、事務局お願いいたします。 |
| 企画部長 | 　ありがとうございました。以上をもちまして、令和 3 年度第 2 回大分市総合教育会議を終了いたします。<br>　次回の開催日や議題等につきましては、事務局で調整させていただき、改めてご連絡いたします。皆様、本日は誠にありがとうございました。 |